

2021 年度休眠預金活用事業 評価計画書（資金分配団体）

- 提出日：2021 年〇月〇日
- 事業名：
- 資金分配団体名：

評価計画書は、事前評価をとおして作成し、自己評価を行うためのツールとして使用します。

【事前評価の流れ】

① 申請内容に基づき、事業設計図の作成

図を作成し、「インプット⇒アウトプット⇒短期アウトカム（事業終了時までに達成を目指す状態）⇒中長期アウトカム（社会課題の解決に向けて目指す状態」の論理的つながりの妥当性を検証（自己評価）してください。資金支援（実行団体の活動）と非資金的支援（資金分配団体の活動）を組み合わせた包括的支援戦略が分かるように記載してください。

② 短期アウトカムの指標の設定

短期アウトカムをどのように測るかについて、関係者と検討しましょう。先行事例がある場合には参照してください。新しい取組の場合には、一度設定した指標をそのまま使い続けるのではなく、より感度の高い測定方法はないか、事業期間をとおして検証していくことが大切です。

③ 事業計画書に事業設計図の内容を記載

事業設計図上で設定した活動内容を、ある程度細分化して、事業計画の「活動」として記載しましょう。抽象的な表現を避け、具体化することで、事業の実現可能性について検証しましょう。

④ 中間評価・事後評価の実施体制・スケジュールの作成

中間評価・事後評価では、事前評価で作成した事業設計図をベースに事業実施状況やアウトカムの達成度、事業実施の妥当性の評価を行っていきます。

1. 実施体制

	中間評価	事後評価
評価計画の見直し時期		
実施時期		評価報告書案の作成後、JANPIA 担当 PO との協議が発生することを想定し、評価計画の見直し時期、実施時期、提出時期は、JANPIA が設定している締め切りから余裕をもって設定することを推奨します。
提出時期		
実施体制		社会課題を取り巻く多様な関係者の視点を取り入れて評価を実施する体制を検討してください。 資金分配団体の伴走支援が必要な場合には、具体的に求める支援を具体的に計画しておきましょう。
評価関連経費（金額）		
評価関連経費の使用方法		資金分配団体の評価関連経費について記載してください。 評価関連経費を活用することによって、自己評価の質（客観性や正当性）を高めることが期待されています。どのように使用することで質の向上を目指すか、資金分配団体と協議し、計画しましょう。 記載例：調査実施により客観的な情報に基づいた評価を目指す、実行団体同士で学び合う場を設定し、自分たちの事業を客観的に見るスキルを磨く、評価アドバイザーを付け、論理的な事業設計作りを目指す、モニタリングのスキルを磨く、第三者委員会や検討委員会等を設置し、事業進捗や自己評価結果についてコメントをもらい、事業や評価の改善に活かす、評価報告書やロジックモデルを分かりやすくビジュアル化することで発信力をあげる。
評価関連経費を使用することでどのように評価の質をあげることを目指しますか		

2. 事業設計図（ロジックモデル・セオリーオブチェンジ等自由選択）

申請した事業内容について、実行団体の事前評価結果を踏まえ、事業設計図を作成し、活動から中長期アウトカムまでの流れを整理し、図式化してください。必ず、資金支援と非資金的支援を包括するプログラムとして整理してください。

ロジックモデル・セオリーオブチェンジ等、活動から中長期アウトカムまでの流れが分かる図式を自由に選択してください。図示したものを本評価計画書に貼り付けて頂いても、様式にそのまま記載頂いても構いません。